論文・設計

不均一の魅力

エイジング建築からムラを評価する

指導教員　吉松秀樹教授　印　　7AEB3129　橋本　未来

1. 問題意識

私は新しくピカピカした建築よりも、古く時間が経過した建築に魅力を感じる。例えば最近では古民家カフェというものに人気があり、他にも古い建築空間を利用したものも多くある (fig.1)。これらは建築が魅力的にエイジングしたのでこのような利用の仕方をされているのだろう。では建築の魅力的なエイジングとはどのようなものだろう。

fig.1 古民家カフェ

2. アンティーク・ヴィンテージの概念

エイジングについて考える上で、古い物の価値評価について考えた。そこでアンティーク、ヴィンテージについて調べた。アンティーク、ヴィンテージはともに希少価値のある古美術や古道具のことであるが、両者を分ける定義がある (fig.1)。主に年数で価値を決めている。

	年数	その他評価等
	100 年以上経過したもの	GATT で法律として定められている
	20〜30 年以上、100 年未満の年数を経たもの	年代のわかる物でないと評価がされない

fig. 2 アンティーク・ヴィンテージの評価基準の違い

3. 本物らしさ–江戸東京たてもの園の違和感–

アンティークなどは、年数で価値が評価されているが、建築は年数だけで価値評価することはできないだろう。これに関連して「オーセンティシティ」という言葉がある。主に建築物の保存、修復において、それらが持つ美的価値や歴史的価値のことをいい、当初から変わらずに保持され続けているとすることで合意が得られているが、その基準は曖昧である。そこで私は江戸東京たてもの園を調査した。確かに「本物」の建築を移築しているが、建築において周辺環境は重要な事柄であり、周辺がいきなり変わってしまうことで「本物らしさ」というものは薄れ、たてもの園の建築群は不自然に感じた (fig.3)。

fig.3 不自然に見える江戸東京たてもの園

4. 建築のエイジング

建築におけるエイジングの評価は何を基準とするのだろう。前出の研究にて首都大、橋高教授はエイジング効果を得やすい条件を以下のようにあげている。

1. デザインがよい
2. 汚れにくい素材
3. 不均一な汚れが生じにくいディテール・形態である
4. 用いた素材が年月とともに好ましく変化する

しかし私は 2、3 の条件に疑問を感じた。エイジングにはシミやシワ、ムラなど様々な現象がある。この現象は悪いものとして捉えられる事が多いが、ファッションにもこのようなエイジング加工というものがあり、良い手法として使われている (fig.4)。建築でもまたそれが魅力につながっていると私は考える。

・ムラ加工	・シミ加工	・シワ加工
ムラ加工は、加工することで自然な使用感を出し、味わいのあるものになる。	シミ加工は、加工をすることでヴィンテージ感・古着感をだし、味のでたものになる。	シワ加工は、加工することで使用感や質感に動きを出し、フワフワとした可愛らしい印象になる。

fig.4 ファッションのエイジング加工例

建築にもシミやムラなどのエイジングの現象があり、これらは年をとったことで得られる建築の不均一な表情である (fig.5)。古民家にもこのような表情がみられ、この変化が建築の魅力的なエイジングのひとつの形であり、変化によって空間にも味わいが出たのではないか。

fig.5 建築のエイジング例